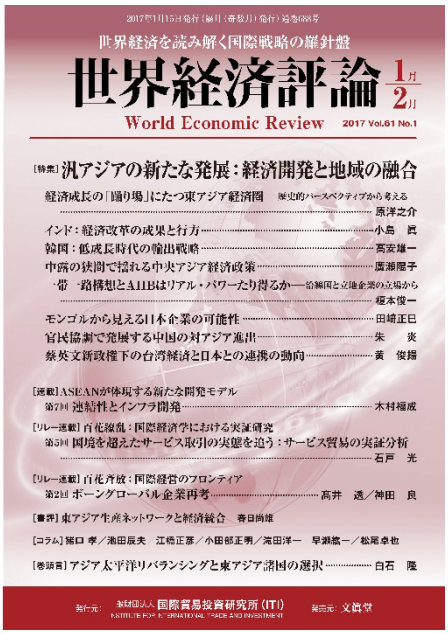
Back Number

本論文は

世界経済評論 2017 年 1/2 月号

(2017 年 1 月発行)

掲載の記事です



2017年1月15日発行（隔月（奇数月）発行）通巻688号

世界経済を読み解く国際戦略の羅針盤

世界経済評論 1月 2月

World Economic Review 2017 Vol.61 No.1

[特集] 汎アジアの新たな発展：経済開発と地域の融合

経済成長の「踊り場」にたつ東アジア経済圏 歴史的パースペクティブから考える …… 原洋之介

インド：経済改革の成果と行方 …… 小島 眞

韓国：低成長時代の輸出戦略 …… 高安雄一

中露の狭間で揺れる中央アジア経済政策 …… 廣瀬陽子

一帯一路構想とAIIBはリアル・パワーたり得るか――沿線国と立地企業の立場から …… 榎本俊一

モンゴルから見える日本企業の可能性 …… 田崎正巳

官民協調で発展する中国の対アジア進出 …… 朱 炎

蔡英文新政権下の台湾経済と日本との連携の動向 …… 黄 俊揚

[連載] ASEANが体現する新たな開発モデル

第7回 連結性とインフラ開発 …… 木村福成

[リレー連載] 百花繚乱：国際経済学における実証研究

第5回 国境を超えたサービス取引の実態を追う：サービス貿易の実証分析 …… 石戸 光

[リレー連載] 百花斉放：国際経営のフロンティア

第2回 ボーングローバル企業再考 …… 高井 透／神田 良

[書評] 東アジア生産ネットワークと経済統合 …… 春日尚雄

[コラム] 猪口 孝／池田辰夫 江橋正彦／小田部正明／滝田洋一 早瀬攻一／松尾卓也

[巻頭言] アジア太平洋リバランシングと東アジア諸国の選択 …… 白石 隆

発行元：一般財団法人 国際貿易投資研究所（ITI） INSTITUTE FOR INTERNATIONAL TRADE AND INVESTMENT 発売元：文眞堂

世界経済評論 定期購読のご案内

年間購読料
1,320円×6冊＝7,920円 ▶ 6,600円 税込

17% 送料無料 OFF

富士山マガジンサービス限定特典

定期購読期間中 デジタル版バックナンバー ※通巻682号以降 読み放題!!

世界経済評論 定期購読

[24時間・年中無休]
0120-223-223

お支払い方法
Webでお申込みの場合はクレジットカード・銀行振込・コンビニ払いからお選びいただけます。
お電話でお申込みの場合は銀行振込・コンビニ払いのみとなります。

Fujisan.co.jp 雑誌のオンライン書店

猪口 孝

アジアと日本の幸福度

アジアの全域で世論調査をやろうと思ったのは1978年である。その年，ユーロバロメーターの始祖，Jacques-Rene Rabier 博士にパリの国立フランス世論調査研究所で会ったことが契機になった。いうまでもなく，ユーロバロメーターは欧州共同体のちには欧州連合の flagship survey である。

アジアでもやりたいと思ったのである。私は政治学をやっていて，アジアの言語についても，中国語，ロシア語，韓国語，ベトナム語，インドネシア語などを勉強したことがあり，世論調査を全域でやろうと長く思っていた。

氏の強調したところは二つ。第一，やるなら継続すること。そして質問は継続するものがしっかりとあること。第二，調査の対象になる人によくわかる質問をすること。まことにその通り。

その後，いくつかの機会が私の前を通りすぎたが，2002年その機会が突然前触れなしに浮上した。日本リサーチ・センターの富家さんが政府関係が駄目なら，民間財団が駄目なら，企業回りだと断言した。20位企業回りを敢行した。10余りの企業から東京大学に寄付してもらって私が使える方法で，2003年にアジアの10カ国で世論調査をランダム・サンプリングや面接調査でやることに成功した。2004年には，外務省からお話があり，当時日本政府は計画していた「東アジア・サミット」のためにアジアで世論調査を実施したいがやってくれまいかという。素晴らしい。毎年運が回ってくるのをまつことになるかと毎年心配の日を重ねた。ラビエとの誓いもあるから，2005年も心配になった。運は運を呼ぶ。毎年駄目だった文部科学省の科学研究費が通った。2005年から2008年までである。アジアの29カ国と隣国の米豪露の3カ国を加えた計32カ国で「生活の質」世論調査，アジア・バロメーターを実施することが確定した。2003年からすでにはじめていたので，総計8回世論調査を実施できた。長い8年間に遭遇した経験のなかから，いくつかをとりあげたい。

幸福度――南アジアは東アジアや東南アジアとくらべて，生活はこういうものだという，期待がどちらかというと低めなところで人はむしろ幸福と感ずるのではないか。ブータンは1人当たりの国内総生産では非常に低いのだが，幸福度がいやに高いことで有名になっている。伝統的な着物をきているのをみると，黒船前の日本社会は幸福感がブータンのそれに近似していたのではないか。インドでも同じだ。インドは何千何万というカースト，言語，階級，人種などでこまかくわかれていて，そのなかでは「小さなことの王様」でありえ，しかもその集団のなかでは自己の尊厳が保たれる。ロシア連邦のツバ自治共和国は寒冷のなかに人口が少なく，空気や水が綺麗ではあるが，生産活動は低めである。しかし，期待するのは完全に期待通り，綺麗な空気，水，植物，動物である。ロシアの世論調査でもっとも幸福度が高いことで一躍評判になった自治共和国である。幸福度は年齢によって上下する。年代ごとにみて単調増加というまれなのがアフガニスタンの夫婦である。70代の夫婦は60代よりも，60代の夫婦は50代の夫婦よりも，50代の夫婦は40代の夫婦よりも幸せなのである。

退出・抗議・忠誠――自分の所属する組織・社会が業績や評判で悪化の一途を辿りはじめた時に，どのような選択をしたらよいのか。会社をやめるのがひとつ。半沢直樹のように声を

あげて抗議をし，改革へと導こうとする。いずれも波風が高くなるだけで，必ずしもよくなるわけではない。忠誠を誓っておくのが多くなる。米国社会は第二次世界大戦後『組織人』とか『孤独な群衆』にみられる同調や沈黙を基調とする1950年代を越えて1960年代や1970年代になると，活発な自己表現が強くなる。2008年のリーマン・ブラザースの大不況後には，退出や抗議が圧倒的な趨勢になる。2016年の大統領選挙に向けた選挙競争で明らかになったことだが，あなどれない反既成勢力が共和党でも民主党でも党内党を作っている。デイビッド・トランプとかバーニー・サンダースはそれぞれの党で反体制政党をつくったようになる。2000年代に既に表出していた米国市民のこのような趨勢は退出・抗議・忠誠の反応に前もって示すかのように分析されている（猪口孝『アジアの幸福度』岩波書店，2014年，第５章）。日本ではどうか。日本の東京都知事選挙でも既存与野党政党推薦の候補が敗北し，政党の支持なしの候補が当選している。政党組織・理念がゆるゆるになっていると同時に，退出・抗議・忠誠が大変興味深い現象として世界中でみられるようになった。日本も例外ではない。

子供に対する躾け――親が子供に躾するときにどのような価値観，規範意識を強調するかを調べた。12のアイテムの内，２個選んでもらった。その結果，東アジアでくらべてみると，中国，台湾，韓国，香港，シンガポールはすべて三位一体である。独立，勤勉，正直の徳が強調されている。日本だけがこれらを強く出していない。独立を強調していない。勤勉は勤勉なのだから強調しないのかもしれない。正直もすでに正直なのだからあまり強調しないのかもれしない。日本では「思いやり」が突出している。mindfulnessが一番強調したいものになっている。東アジアというと儒教思想が普遍的に強いと思われているが，世論調査の結果は２つの意味で違っている。第一，儒教思想でいうと，格物，致知，修身，斉家，治国，平天下の順に習練を積むようになっているが，親の躾でみるとかなり初歩的な段階にとどまっている。第二，日本が例外的に「思いやり」を強調しているが，自己の修練（独立，勤勉，正直などを強調）をあまり強調していない。大陸の東アジアの社会と少し違って，他人との競争・闘争で強く生き延びる必要があまり突出していない。第一の点，第二の点の両方ともそれだけでは儒教思想の影響とは言いがたい。２つそろって儒教精神になるのだろう。

［参考文献］

生活の質（quality of life）に焦点をあてた大規模世論調査の分析の一端である。英語で刊行を優先してきた。詳細は猪口（2014）の参考文献をみていただければ幸いです。

Takashi Inoguchi and Seiji Fujii, *The Quality of Life in Asia*, Springer, 2012.

Shin, Doh Chull and Takashi Inoguchi, eds., *The Quality of Life in Confucian Asia*, Springer, 2009.

Takashi Inoguchi and Yasuharu Tokuda, eds., *Trust with Asian Characteristics*, Springer, forthcoming in 2017.

Takashi Inoguchi, Exit, *Voice and Loyality in Asian Societies*, Springer, forthcoming in 2017.

猪口孝（編）『アジアの情報分析大事典』西村書店，2013年

猪口孝『アジアの幸福度』岩波書店，2014年

いのぐち　たかし　新潟県立大学学長。